

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	話し合い活動を中心に、多くの生徒が授業に対して主体的に学習に取り組んでいる。一方で、習った知識や技能を普段の生活に生かすことが十分にできていないことが課題である。授業の内容で完結してしまい、その後の学習に十分に結び付いているとはいえない現状にある。	習った知識や技能を普段の生活に活用できている生徒を増やすために、他教科と関連させた教科横断的な授業を展開したり、日常生活との関連性を考えさせたりする場面を増やしていく。同時に、読解の方略や建設的な話し合い等、日常生活との関連性を意識させる指導を行う。	
社会	多数の生徒が授業に対して意欲的であった。その理由として ICT 機器を活用していることが考えられる。学習内容を生徒同士が伝え合い、学んだことを深めていくために、生徒配布のタブレットをいかに効果的に活用していくかが課題である。	従来のお話し合い活動や自分の考えをまとめる機会も大切にしていく。その一方で、意見交流を活発化させるための Google アプリが数種類あるため、授業内の場面ごとに、教育効果がより高いアプリを選択していき、更に意欲を高めていきたい。	
数学	前向きに学習に向かい、わかりたい、できるようになりたいという気持ちをもって授業に臨んでいる生徒が多くいる。一方で日常の生活に数学を関連させて考えられてはいないことが課題として挙げられる。	それぞれの単元で、日常生活に関連した題材を扱い、数学の意義や有用性を理解させ、身に付けさせる。また、身近な生活の場面と関連させた発問の仕方を工夫して、生徒自身に考えさせる時間を設ける。	
理科	多くの生徒が意欲的に授業に臨んでいて、実験の予想・考察も活発に行われている。しかし、日常生活に目を向けると学習内容と関連付けて考察する力に課題がある。身近なところで理科が活用されていることを実感させることが課題である。	考えを共有するグループワークや、自身の考えを深める考察については引き続き行っていく。加えて、教科書に載っている実験だけでなく、日常生活を理科的に解釈している動画や、体感できる実験を増やしていく。	
音楽	多くの生徒が、授業に対して興味・関心をもって、集中して授業に取り組んでいる。習った知識や技能を普段の生活に活用できていない生徒が多いことが課題である。	学校の授業のみならず、私生活で音楽に触れる機会は多くある。授業ではたくさんの種類の楽曲や楽器に触れさせ、生活の中で音楽を聴く際に、習った知識と結び付けられるような授業づくりを行う。	
美術	多くの生徒が、素直に、意欲的に制作に取り組んでいる様子が、1年生のときから見られた。ただ、わからないこと自ら進んで解決しようとする姿勢や、表現として発展させようとする姿勢はまだ弱いと感じる。	ただ制作するだけにとどまらず、授業で説明のあった技術的な知識を生かし、表現につなげられるような、指導を心がけたい。そのためには、個別指導での的確なアドバイスと、生徒の参考作品を効果的に紹介できるように工夫したい。	
保健体育	多く生徒が、授業に対して積極的に参加し、規律を守って安全に活動をしている。行事の構成上、全体指導も多く「考える」「教え合う」「実際生活に生かす」ことが課題である。	運動量と話し合いのバランスをとり、「考える」授業づくりを実践する。また、ICTを成果の確認などに活用し、より生徒が主体的に動ける場面を設定していく。	

技術 家庭	<p>〈技術〉 多く生徒が、授業に対して積極的に参加し、規律を守って安全に活動をしていた。しかし、授業では、「積極的な発言」や「興味や関心を持ち、考える」ということについて実践する場面が少ない。</p> <p>〈家庭〉 多くの生徒が意欲的に活動していた。1学期は、家庭科の授業としては大切な基礎的な部分が多く、意欲的ではあるが積極性にはかけていた。</p>	<p>〈技術〉 授業では丁寧に説明しようとして、説明の時間が長くなってしまったので、もっと説明を簡潔にし、考える場面や発言できる場面を設けていきたい。そのために生徒用のタブレットを使い、個人の意見を出せるような工夫を図りたい。</p> <p>〈家庭〉 挙手で発言することに抵抗感がある生徒がいるため、班活動や ICT 機器を使っての発表する形をとることで自分の意見を他者と共有できるようにする。</p>	
外国語	<p>授業に意欲的な生徒が多くみられる。家庭学習の課題や、小テスト、スペリングコンテスト等によく取り組んでいる。日常生活の中で学習したことを活用できている実感が少々あると考える。</p>	<p>家庭学習の課題、小テスト等を活用して、学習の定着に不安のある生徒を授業中によく観察し、適時声かけをしていく。実生活と結びつけた場面設定を行って言語活動をするなど、生徒の共感性を引き出す内容にするなどして、学んだ内容をどのような場面で活用できるかを気付かせるように心掛けていく。</p>	